

佳作

おばあちゃんツアー

富山県
黒部市立三日市小学校 二年

長谷川 翔一

ほくには、二人のひいおばあちゃんがいる。もうすぐ百さいのてるおばあちゃんと、八十八さいのさき子おばあちゃんだ。二人ともろう人ホームにすんでいる。毎月ほくたちは、おばあちゃんに会うために二つのホームへいく。それがおばあちゃんツアー。

さいしょによるのは、てるさんホーム。てるおばあちゃんは、おかあさんのおばあちゃん、二年前までちかくにすんでいた。おかあさんは、はじめてうんだほくのそだてかたがわからなくて、おばあちゃんにいろいろたすけてもらった。赤ちゃんをそだてる大ベテランだから、とつてもたよりになるんだよ。おばあちゃんにおまっちゃんをたててもらったり、パンケーキをつくってもらったり。いっしょにこのほりをながめたりしたことも、すっかりおぼえている。楽しい思い出がいっぱいあるから、ホームであつても「あら、しょういつあん、きてくれたの。」とよろこんでくれる。年をとつて耳がきこえにくいから、紙に書いてあげると、おばあちゃんはよろこんで、おしゃべりがとまらなくなる。ほくも「あいにきてよかつたなあ。」と思う。

次によるのは、さき子さんホーム。さき子おばあちゃんはおとうさんのおばあちゃん、はたけしごとやぎゅうにゅう

はいたつを、足がいたくなるまでがんばつた。それで、とうとう車いすになつてしまつて、ほくが生まれる四か月前ホームへ行つた。ほくはおばあちゃんにくらしたことがないから、おばあちゃんのことをよくしらない。おばあちゃんも、いろいろわすれるようになって、ほくたちを見てもかぞくだとわからない。それでもほくたちは会いに行く。なにもわからなくても、にっこりしてもらえなくても、今までありがとうというきもちで会いに行く。長いあいだはたらいでくれて、ホームで元気でいてくれてありがとうつて。おばあちゃんにつうじなくても、かんしゃの気もちをわすれちゃいけないと思う。

今日は、おもちゃのピアノをもつていつて、うたをきかせてあげよう。おばあちゃんは、子どもとうたが大すきだから。本とうはうちにきて、ほくのグランドピアノを見せてあげたいんだけど。ほくが大きくなつたら、二人のおばあちゃんをしょうたいしてえんそうしてあげるよ。てるおばあちゃんには「エリーゼのために」、さき子おばあちゃんにはどうようを。それが、ほくの「ありがとうのプレゼント」だよ。まつてね、おばあちゃん。